

ライフ
ストーリー

Mさん

(2012年3月商学部卒業、関西学院大学の
LGBTQサークル「CASSIS」創設者)

楽しく生きたい

1. 大学生活について

Q, 大学の生活（キャンパスライフ）はどうでしたか？

まずは僕の大学入学が、学問に真摯に向き合うことを最優先とせず、受験勉強という苦痛からの解放を満喫する4年間を期待していたことを神に懺悔ざんげしていることを前提に、これからのインタビューをして頂けると幸いです。

結論から言うと、満喫するということは、僕にとってはなかなか難しいことでした。大学では同世代の人に対して、ゲイであることを卒業するまで隠していたからです。カミングアウトしたら不必要に嫌われたり、嫌がらせを受けたりする可能性があるのではないかという懸念があり、男子とする恋愛話も下ネタも、お互いに分かり合えない気しかしません。色々と天秤てんびんにかけた結果、カミングアウトの必要性を感じず、そもそもノンケ（異性愛者）と人付き合いしなくても良いのでは？との悟りを開いてしまいました。さらば、夢見たキラキラのキャンパスライフ、ですね。入学することを目標に生きてしまっていたので、入学後のキャンパスライフを想定してセクマイサークルのある大学をリサーチしていなかったのは僕の落ち度でした。

人と関わらないようにした僕は、学内ボッチの道を突き進みました。ノートが借りられなかったので、この選択はオススメしません。

Q, 寂しい思いとかはしませんでしたか？

そんなに寂しくはなかったです。その時ちょうど、ネットゲームにドはまりしていました。ネット上の友達とは、ゲームという共通の話題があるから、ゲイであることを話さなくても盛り上げられるので、僕にとって居心地がいい場所があったんです。こちらはオススメです。

Q, 大学生活の中で、セクシュアリティ関係で嫌な思いをしたとか、そういうことはありましたか？

なかったです。そうなることを予見して人との関わりを避け、学内ボッ

子を極めていたわけです。

それに、ゲイであると自覚して10年ぐらい経っていたので、ある程度は耐性ができていたかなど。ノンケがゲイを揶揄するのが当たり前みたいな世の中になっちゃっているの、「お好きにどうぞ」みたいな感じに思っちゃっています。ただ、ことあるごとにゲイを揶揄するうちの会社のお偉いさんには、さすがに心の中で藁人形を打たずにはられません。

Q、カミングアウトはいつしましたか？

卒業間近の時です。「嫌われたら面倒くさいな」という思いはあるけれど、逆に「言ってみたらどうなるんだろう？」という好奇心もありました。怖いと分かっているジェットコースターやお化け屋敷に入ってしまう人間のさが性に従った部分もありますし、これから社会に出ていき、同じ会社に長く所属することになったら、結婚の話はまず回避できないでしょう。その時、「なんとかごまかす」か「もうカミングアウトしてしまう」かの2択かなと思っていたので、実験という意味合いもありました。理想はカミングアウトして働くことでした。

在学中のカミングアウトは女子のみにしました。ゲイと女子は、お互いなくても生きていける、無害で無縁な存在なのではないのかなど。そうであれば、ゲイについて嫌悪感のようなものを抱く余地が少ないのではないかなど推測しました。結果は、「へえ、そうなんだ」で終わりました。

この一件や、僕が今までの人生で見聞きしたもので判断すると、若い人はそんなに偏見とかないのかもしれないと、最近思うようになってきました。

Q、カミングアウト先を男性にしなかった理由はありますか？

男子にカミングアウトしたとして、「そんな目で見てたの？」とでも言われた日には、「あ、ウザッ！」ってちゃうなって思っただけ。でも、「実際はどんなことを言われるのかな？」という好奇心もありました。なので、卒業してから1人だけ男子にもしてみました。選考基準はいかに中性的かでしたが、それでも女子にするのとは違って結構勇気がいりました。思い出

せない程度の反応しか返ってこなかったのだと思いますが、その人がゲイであることが後に判明しました。

2. CASSIS について

Q.そもそも、CASSIS をどうして作ろうと思ったのですか？

学外に出会いを求めると、物理的距離や労力の問題があります。例えば、SNS で知り合った人と「今度、遊びましょう！」ってなると、誘ったものの何話そうかなとか、どこか予約しておいた方がいいかなとか、色々面倒じゃないですか。学内だったら、共通の話題も何かしらあるし、フラッと「皆でご飯食べよう」みたいなこともできる。あわよくば学内恋愛もしたい。夢見たキラキラのキャンパスライフを諦めきれなかった結果がCASSIS ですね。同世代のノンケと付き合いをしてない分、リソースはいっぱいありましたし。

というわけで、実は僕は【LGBT サークル】ではなく【ゲイサークル】を作るつもりで動いていました。

ゲイ専用の SNS で関西学院のコミュニティを作ってみたり、日記検索で日付と入学式とか学祭とかのワードで検索して、画像から関学生を特定したり。それだけ聞くと、めっちゃヤバイ人ですよ。

また、メンバー募集を兼ねたホームページも作りました。その過程で、同じようなことをしている違うセクシュアリティの方と遭遇して、【LGBT サークル】になる運びとなります。

僕は他のセクシュアリティのことをあまり知らなかったので、『家族と友人をつなぐ会』などに行き、勉強させて頂きました。僕は「楽しく遊んで絆を深める」をテーマに運営したかったので、さすがに代表が他のセクシュアリティに関する知識がないのは良くないと思いましたし。

相談を受けた時に「こうしたら良いよ」という答えは多分、他のセクシュアリティの人には言えないと思います。ゲイに対しても言えるかどうか分からないですけども。でも、「こういう団体があるよ」と紹介できる知識と、無知から傷つけないための知識くらいは、あれば良いかなと

思っ。

Q. 活動していて問題などありましたか？

場所が問題でした。公認団体じゃないと、学内で活動場所を押さえることができなかったので、その辺が本当に大変でした。あと、欲を言えば活動費もほしかったです。人権やLGBTの授業をしている武田丈先生に「場所とかをどうしたら良いと思いますか？」と相談しに行ったり、カウンセラーの先生に「カウンセリングルームってお借りできますか？」みたいに相談しに行ったりしました。

でも、学校の規則として、非公認団体では部屋は取れないし、カウンセラーの方も「部屋を使うのは大丈夫だけど、カウンセリングを受けている人も利用するので、貸し切りはできません」という話でした。10年前の話なので、記憶違いだったらすみません。

最終的には、「木を隠すなら森の中」というわけで、あえて騒がしい場所で集ったりしていました。知り合いには遭遇するけれども、はたから見ると、友だちとダベってるみたいな雰囲気。色々な方にご協力は頂けたんですが、僕の在学中には安住の地はなかったです。

Q. CASSIS を創設してみて、周りの反応はどうでしたか？

どうなんだろうね。誰かに頼まれてやっていたわけではなく、自分がほしいと思ったものをやっていたので、マイナス要因の発生以外には気を使っていなかったかも。メンバーから「作ってくれてありがとう」と言われたことはありますが、それはセクマイの関学生の総意ではないですし、全てを受け止めるなんて無理です。サークルに馴染んでくれた人だからこそ、出てくる言葉だと思います。

逆に、今でも CASSIS が存続していることが、純粹にすごいなって思っています。今や僕が、CASSIS を客観的に見る側の存在としての感想ですね。昔は 8 割がゲイ、みたいなサークルだったんですが、今は割合が違うみたいですね。どんどんネットやアプリとかが発達してきて、出会い方も当時よりも増えてきていると思うから、当時のサークルと存在意義が変わっ

てきていたりもするのかもしれませんがね。

3. 就活について

Q. 就職活動について聞かせてください。

割と新生活を楽しみにしていました。その上で、4回生の時に自分がこのままゲイということを隠して生きていくかどうか、考えていました。

面接やエントリーシートに、CASSIS を作った話を使用したこともあります。行動力アピールですね。やっぱり一生勤めていくんだったら、入る段階で僕がゲイだって就職先に言っている方が、今後嘘をつく回数^{うそ}が少なくなくて済むんじゃないかと思いました。そうすれば、心理的にすごく働きやすいなって。

だから、関学のキャリアセンターに対しては「ゲイフレンドリーな会社を教えてほしい」ってめちゃくちゃ思っていました。「教えてくれたら、そこ受ける！」みたいな気持ちで。

Q. キャリアセンターには、そのことは相談しなかったの？

しませんでした。だって、信用できるかどうか分からないから。キャリアセンターの人に、LGBTに関する知識とかがあるとは限らないですし、何か偏見を持っていて、就活や学生生活で不利になったら嫌だなど。だから僕は、キャリアセンターには相談したくなかったです。

そのうえで、凶々しい話ですが、キャリアセンターには「ゲイフレンドリーな会社を教えてほしかったな」という思いがあります。例えば、「LGBT 向けの研修をしています」という会社を教えてくれたり、福利厚生でパートナーシップ証明があれば婚姻関係を結んでいる人と同じ扱いになるという企業を教えてくれたりとか。実際にすでに働いているセクマイのOB・OGの話も、今となっては聞ければもっといい就活ができたんじゃないかなと思ったりもします。そして、きっと今でも一定の需要はあります。

企業に対してのカミングアウトは影響が他に及ばないので、面接やエン

トリーシートでカミングアウトをした企業もあります。「LGBT って何ですか？」ってよく聞かれたので、一から説明していました。面接官が高齢になればなるほど、その質問が多かったです。生きやすいて、難しいですね。

最終的に、入社したのはカミングアウトしていない企業でした。全国に出張する会社で、「全国に出会いがあるんじゃないかな」ということを目当てに入社したわけですが、過疎地のオンパレードで全然出会いがない上に、上司に夜の12時ぐらいまで拘束されてる生活が続いて、辞めちゃいましたね。

転職して、今の仕事は大阪で定時上がりです。「アフターファイブならいっぱい出会える！」と思いきや、意外とアフターファイブの人がいないです。転職活動自体は、一瞬で終わりました。「K.G. ジョブサポート」という卒業生向けの転職サイトがあり、それを見て履歴書を送りました。その時は、「まず転職したい、自分の生きやすさは後回し」という気持ちでカミングアウトはしていません。結果、ことあるごとにゲイを揶揄する人と同室で働くという責め苦を受けることになりましたが。

Q. なにかセクマイの就活生にアドバイスはありますか？

自分はゲイ目線ではかアドバイスできないですが、「どう生きていくか」を考えておくことが大事だと思います。

例えば、職場で隠して生きていこうと思うのであれば、結婚していることがステータスとなる一部大企業とかは、働きにくい側面があったりするんじゃないかなと。想像ですけど。

関学の卒業生に限らなければ、社会人のゲイの人を見つけるのは簡単です。この時世、ツイッターで検索すれば、すぐ出てくる。社会人になる上で、何かちょっと不安なことがあるんだったら、ちょっと年上のゲイの人とコミュニケーションを取ってみてもいいと思います。

大阪だとゲイカップルで子供を養子縁組した例はありますが、偽装結婚しなければ基本的には出産や育児はないわけで、稼がなきゃいけない額はノンケよりは少ないと思います。そのうえで、どんなライフスタイルを送

りたいか、どの程度の給与水準がいいかっていうのを、周りのノケに流されずに考えてみるといいと思います。

また、LGBT 向けの採用説明会とかしているところに行ってみたりするのも、楽しいと思います。社内に LGBT サークルがある企業の話が聞けたりします。

でも考えすぎはよくなくて、もう「考えてもどうしようもない」ってなったら、取りあえず楽しく生きようって思うことが大事なんじゃないかな、きっと。自分を追いつめないこと。

4. 関学を振り返って

僕は CASSIS を通して「普通の友達ってこんな感じなんだな」という貴重な経験ができたし、2年間好きな人がいて、割と青春もしていました。楽しかったです。学内にセクマイサークルを作るということは、生徒数が多い学校じゃないと難しいので、関学で良かったです。まあそもそも存続している LGBT サークルがあればもっと良かったのですが。後に、CASSIS 以前にもサークルがあったことを知りましたが、入学した頃に動きがなくなったみたいです。

また卒業してからも、たまにこうやって関わったり、講演会のパネラーとして呼ばれたりするなかで、色々な先生が LGBT に対してすごい前向きに向き合ってくれていることが実感できた点も、関学でよかったなと思える点です。

とある大学では、アウティング事件で自殺者が出ました。説明会などで情報収集した限りでは、その学校に入らなくて本当に良かったと嫌悪しました。また別の大学では、昔 LGBT のサークルがあったんですけど、学校から「公序良俗に反するようなサークルは止めてくれ」という旨の圧力があったと、当時の代表から聞きました。僕らのこと、何だと思ってるんでしょうね。

そういう諸々のことがあって、関学で本当に良かったなって思いますし、関学にいるその教員や教授の人、もちろん全員かはわかりませんが

ど、頼れる大人の人がたくさんいると思います。困ったことを、同世代の人とかに相談するのは無理かなって思ったときは、カウンセラーの先生でも良いし、武田先生でもいいし、相談できそうだなと思ったほかの人でもいいし、誰かに相談してみしてほしいなと思います。相談した先生が、もしなんか違うかった場合は、違う先生に相談しなおしてもいいし。その結果、何かあれば、関西にはゲイを公言している弁護士もいますし。今では関学でレインボーウィークがあったりして、僕の在学中よりも、もっといい感じなのではないかなと思います。

でも、一番関学でいいなと思う点は、関学では同性でも結婚式が挙げられる点ですね。いつか相手を見つけて、結婚式、ひいては夢のケーキ入刀をしてみたいものです。

5. 最後に

30代になったばかりの僕の感想ですが、今までの人生を振り返ってみて、サークルを作ったり、カミングアウトしたり、ノンケであればしなくてもいい努力というか紆余曲折がいろいろありましたが、その結果かはわからないけれど、そこそこ楽しい人生を送ってきたかなど。僕は死恐怖症ということもあり、長生きのために楽しく生きなければいけない部分もありますが、これからも楽しく生きていけたらなと思います。